

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200106		
法人名	有限会社ケイ・エム・コーポレーション		
事業所名	ランの郷		
所在地	静岡県清水区承元寺町222番地		
自己評価作成日	令和5年4月27日	評価結果市町村受理日	令和5年6月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の玄関に入ると職員が明るい笑顔で迎えます。そして古民家を改造した木のぬくもりを感じて頂ける住まいとなっています。入居者一人一人の立場に立ったケアを実践し思いやりあふれる温かな施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyoyoCd=2294200106-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoyoCd=2294200106-00&ServiceCd=320&Type=search)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和5年4月27日		

事業所の理念「利用者中心の介護」を掲げ、自宅にいる雰囲気大切にしている。コロナ禍により交流や外出が制限されている状況であったが、日頃から近隣住民との挨拶や、花や野菜の差し入れなどのお付き合いを続けていた。家族との関係継続のために、ガラス越し面会を実施してきたが、コロナ後を見据えて、面会方法の緩和や家族との食事レクリエーションの開催等を検討している。管理者は、法人本部のマネージャーと連携して年1回の個人面談と定期的な職員研修を行うとともに、朝ミーティングや業務日誌にて職員との情報共有を図りながら、利用者・家族の意向に沿った暮らしぶりを支援している。管理者・職員は、感染症予防対策として定期的な消毒と換気を行い、こまめな掃除・消毒により、清潔で安全な環境作りを心掛けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関に掲示し管理者やケアマネジャーは業務日誌と月例ミーティングを活用して職員との情報共有を図っている。	事業所理念を玄関に掲示し、理念「利用者中心の介護」の実践に取り組んでいる。管理者やケアマネジャーは、朝ミーティングや業務日誌を活用して職員との情報共有を図りながら、都度、職員との話し合いを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	直接交流はできない状況だが地域住民とは連携を大切にして日頃から挨拶を心がけている。	コロナ禍により直接交流ができない状況であっても、日頃から近隣住民との挨拶や花や野菜の差し入れなどのお付き合いを続けている。管理者は、コロナ後を見据えて、近隣住民との関係継続を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設はオープンにしている。見学することもできます。質問があれば相談にも応じます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、いまだ書面にて開催している。	コロナ禍により、運営推進会議は2か月に1回、書面にて開催している。議事録を地域代表や家族へ送付して事業所での様子を伝え、アンケートにて意見の聴き取りを図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村から連絡があるときは訪訪して出席するように心掛けている。	運営推進会議が書面開催のため、都度市担当者への報告を心掛けている。コロナ禍での感染防止の対応等を相談しながら、コロナ後を見据えて、協力関係の継続を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては3か月に1回勉強会を行っている。	身体拘束適正化委員会は、コロナ禍により、管理者・ケアマネジャーが3か月に1回開催している。職員は、法人研修計画により、年2回身体拘束に関する資料を回覧して研修を受け、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	

静岡県(ランの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全ての職員が理解しており言葉の虐待に関しても職員一人ひとり利用者の対応に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に成年後見人者制度が必要な人がいるため活用出来る様、関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者様に時間をとって頂き説明し理解して頂く様に努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの苦情や要望はその都度話を聞き家族様に連絡を取り、利用者が納得されるまで時間を掛けている。	コロナ禍の中でも工夫をして、ガラス越し面会など家族との面会を継続していた。管理者は、運営推進会議議事録送付の際には献立表などを送り、事業所での様子を伝えるとともに、都度こまめな連絡を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員の面談を行い本部マネージャーに連絡する。	管理者は、職員との会話を心掛け、都度職員の意見や希望の聴き取りに努めている。法人本部のマネージャーと連携して、年1回の個人面談や評価シートにより、職員の課題や意見の吸い上げを心掛けている。法人への要望により、PC環境を整備することができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に話を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して見るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、オンライン等を活用し取り組んでいたが、コロナ感染により交流する機会がなかった。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のアセスメント等で情報収集し、声掛け、傾聴しながら安心して過ごせる様心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が何か聞きたいこと、困った事が起きた時は、電話対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題が挙がったら、管理者ケアマネジャーと話し本社家族様に聞き職員会議で問題解決に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とは何でも話せる関係になれる様職員一人ひとり心掛けて努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況を電話等で御家族と共有し共に御本人を支えていく関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由です。電話対応も受けます。ガラス越し面会でお願いしています。	コロナ禍の影響で外出が難しい状況が続く中、ガラス越し面会や衣替え時の衣類交換など、工夫しながら関係継続を支援している。コロナ後を見据えて、家族が訪問できる環境を整え、事業所の対応を検討している。	

静岡県(ランの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が必ず利用者様についています。利用者様同士での口論の様なトラブルが起きるが、職員が中に入り関わるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設を紹介し分からない事があれば相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者家族の情報が整理されており、これに基づいて日々の生活の中から利用者様の行動や意向の変化の把握に努めている。	入居時面談の際、利用者・家族の情報や希望・意向を、フェースシートやアセスメントシート「ご入居相談受付簿」に整理し、情報を共有している。入居後も家族との連絡を心掛け、都度確認しながら、利用者や家族の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記と同様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状を職員間で常に話し合いながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例ミーティングにモニタリングを行いケアマネージャーは管理者と職員との意見交換を図りながら介護計画に反映している。	月例ミーティングにてモニタリングを行い、ケアマネージャーは管理者・職員との意見交換を図りながら、介護計画に反映している。業務日誌・個人ノートを活用し、医師や訪問看護師の意見を参考にして、常に話し合いながら計画作成につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌個人ノートを記入し申し送りする。		

静岡県(ランの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りの環境に恵まれている。 自然を感じながら生活をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回往診をお願いしている。利用者様が具合が悪くなったときには必ずかかりつけ医に連絡をし、先生の指示を受けて動いている。 病院に受診に行ったり先生が往診してくれます。	協力医の月1回往診と看護師の週1回訪問により利用者の健康を管理している。職員は、看護師の健康管理情報を共有し、急変時には医師・看護師と連携した対応ができる。提携歯科医が3か月に1回訪問診療している。他科受診へは、家族と相談しながら、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週1回の支援を受けています。 個々に利用者様が相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院 関係者には、個人の情報を共有し病院での様子を伝えてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に説明をしている。 終末期に入った場合、主治医と家族と話し合いをしていただき施設は先生から指示を受けて介護にあたっている。	重度化や終末期に向けた事業所での対応について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した際には、主治医から家族に説明し、再度家族の意向を確認の上、主治医と訪問看護師と連携しながら、意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設で出来ることは限られている。その時にあわてないためにも日頃から早め早めに対応をしている。記録をつけている。		

静岡県(ランの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方の協力を得て、訓練を行い消防署とも連携をとり行なっている。	災害備蓄品は5日分を目途に備蓄し、本部対応にて管理している。各部屋にランタンを用意し、食材保管方法などの停電時の対応を検討している。コロナ感染の影響により、災害訓練が実施できていないが、5月実施予定で準備を進めている。	コロナ禍であっても、年2回災害対策訓練の実施が求められているため、早急に訓練を実施して、写真等の訓練記録を整備するとともに、災害対策BCP策定に向け、近隣住民と連携した訓練の実施を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者様に接するように心掛けている。	利用者の尊厳やプライバシーの確保について、法人の年間研修計画に基づき、定期的に職員研修を行っている。管理者は、課題が散見された場合には都度注意し、月例ミーティング等にて職員全員との情報共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に利用者様のそばにいて思いを聞くように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に希望に添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回理美容している。 本人の希望の洋服を着ていただいている。 ひげそり・爪切り気を付けておこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は行っていたが、コロナの為今は、できていない。	食材購入は宅配業者を利用し、職員が調理している。家族や地域住民から届く差し入れ(野菜や果物)を活かし、利用者の好みの季節の味を大切にしている。食材業者のミニ情報を載せた献立表を毎月家族へ郵送している。コロナ後には、家族を交えた食事レク開催を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人のペースを大切に希望に添えるように努力している。		

静岡県(ランの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。職員が介助しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し記入している。時間でトイレ誘導している。自立している人も職員が見守り確認している。	「排泄チェックシート」を利用しながら、先回りの声掛けによるトイレ誘導に取り組んでいる。夜間おむつ利用者も、昼間は自立して排泄できることを目標として支援している。利用者の状態により二人で介助するなど、工夫した対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談をして薬の処方と水分摂取と運動に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間の入浴予定をたてている。	週2回、午前中の中の入浴時間を基本としているが、利用者の体調や希望に合わせて、シャワー浴や足湯等、工夫しながら支援している。二人介助など、安全面に配慮した対応を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせて就寝の声掛け介助をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の状態に合わせ服薬確認介助をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きな事を聞く、レクリエーションや生活リハビリになる。		

静岡県(ランの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員がついて行なう様にしている。また、コロナの為外出禁止です。	コロナ禍の中、外出が困難な状況が続いているため、事業所庭の散歩や窓を開けた外気浴など、工夫しながら対応している。通院時のドライブも貴重な時間ととらえ、職員が利用者個々に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為できず個人でお金を使う場面が作れていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の電話は利用者様につないで会話を楽しんでいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝職員が清掃している。消毒も毎日おこなっている。	古民家を改装した事業所は、玄関、台所、居間等昔ながらの自宅にいる雰囲気大切にしている。職員がこまめに掃除・消毒を行い、清潔な環境作りに注力している。感染症予防対策として、テーブルや手指の定期的な消毒と、エアコン・扇風機を活用した換気を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに自席がある。自室で休んだり、リビングに座ったり自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室になっている。自分で自分の管理できない人の為に分かりやすく整理整頓をしている。	入居時に使い慣れた家具を持ち込み、利用者の状態に合わせた配置・整理整頓を工夫して、安全に配慮した居室作りを支援している。コロナ禍の中でも、衣替え等に家族の協力を得て、居心地の良い空間作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のネームプレート、トイレの表示など工夫し自立した生活ができるようにしている。		